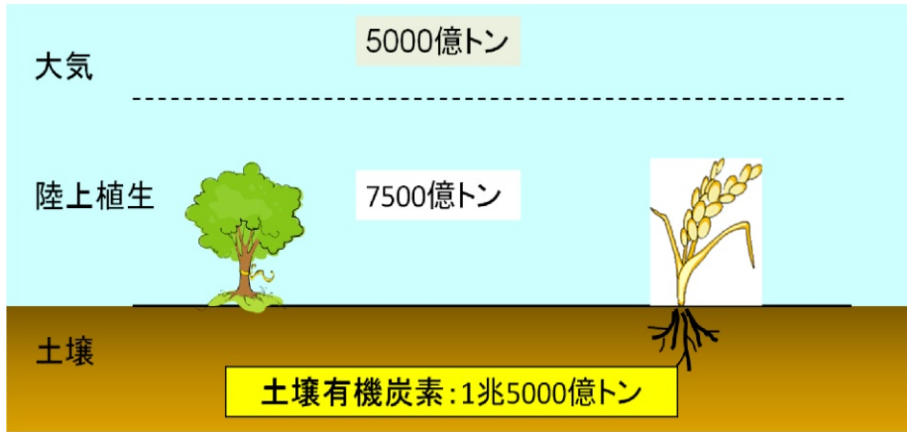


土づくりは地球温暖化防止にも貢献

—炭素(有機物・炭)を土中に貯留—

【背景・目的・成果】 土壌中には大気中の3倍にも上る炭素が含まれています。炭素を多く含む有機物を堆肥として施用したり、炭を土壌改良材として施用し、地力を増進する土壌管理は、地球温暖化防止にも貢献するものです。県内各地の土壌炭素量の調査や、堆肥や炭による土壌への炭素蓄積技術を開発しています。



土壌は巨大な炭酸ガス(炭素)貯蔵庫です。生産性を保ちつつ上手に炭酸ガスを貯蔵する技術開発を目指して研究しています。



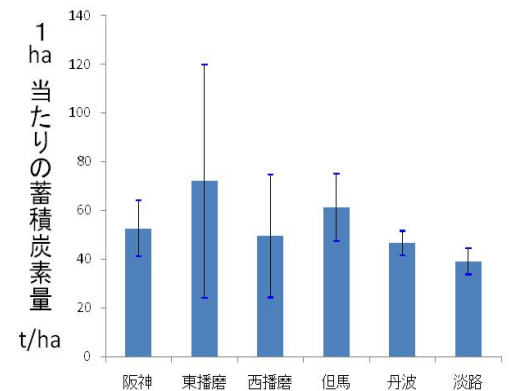
県下全普及センターと連携をとり県下71地点の土壌の炭素貯蔵量を調査しています。



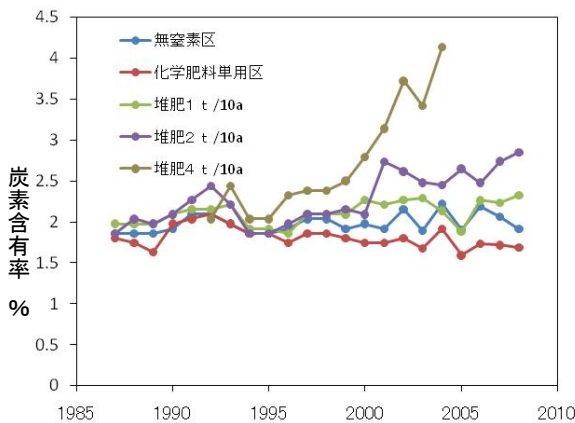
土壌調査の様子



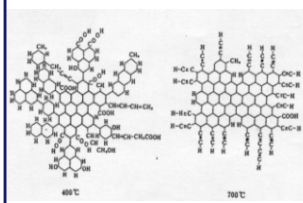
炭素分析装置



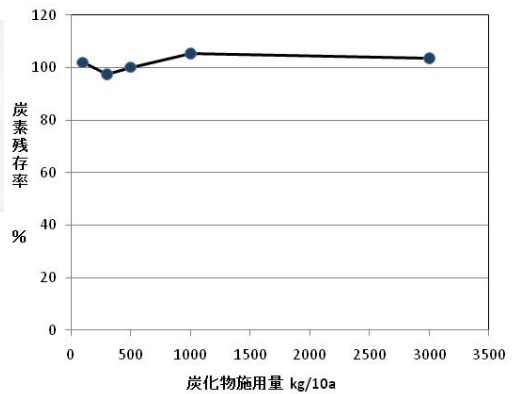
県下土壌の地域別炭素貯蔵量を明らかにしました。



堆肥を2トン/10a以上連用すると炭素の貯蔵量を増やすことができます。また、土壌の生産性向上も期待できます。



このような縮合環構造は極めて安定な構造



近年施用が増える傾向にある炭(木炭等)は、土壌改良材の中で最も炭素蓄積効果の高い資材です。炭素が強固に結びついた構造のため、土壌中で半永久的に炭素を貯蔵できます。

【技術の活用】 農業の土台である「土づくり」により、生産性向上と地球温暖化対策を推進します。